

# RETAILER ACADEMY NEWS

Jan 2022 | Bentley Motors Japan

## 2021年の全世界の販売台数は14,659台 日本も過去最高の596台を記録



ベントレー モーターズがこのほど発表した、2021年のグローバルの販売台数は、過去最高となる前年比31%増の14,659台でした。2020年には過去最高の販売台数を記録しましたが、2021年はそれを大幅に上回る結果となりました。ベントレー モーターズではこの記録的な好調の要因が、新モデルの導入や魅力的な製品ポートフォリオ、Beyond 100戦略に基づいて導入されたハイブリッドモデルへの需要の増加などと分析しています。

特にハイブリッドモデルについては、ベンティガ ハイブリッドを導入したことにより、ベンティガがデビュー 5年目で過去最高の販売台数を記録するなど、ラグジュアリー SUVとして大きな成功を収める要因となっています。

モデル別のシェアでは、ベンティガが40%で最多。33%のコンチネンタルGT（クーペ60%、コンバーチブル40%）がこれに続き、フライングスパーは27%でした。フライングスパーについては、ハイブリッドモデルの導入される今年はさらに伸びると予想されています。

地域別シェアでは、北米（4,212台・39%増）が29%で最大市場の地位を維持。コンチネンタルGT Speedの導入や通年でのフライングスパーの好調が北米市場の好調を後押ししました。フライングスパーとベンティガが好調だった中国（4,033台・40%増）が28%の僅差で続き、以下、欧州（2,520台・15%増）が17%、アジアパシフィック（1,651台・37%増）が11%、英国（1,328台・14%増）が9%、

中東（915台・24%増）という結果になりました。いずれの市場も2桁増を記録しており、世界中でベントレーの人気が高まっていることを示しています。

### エイドリアン・ホールマーク会長兼CEOのコメント

2021年も予断を許さない年でしたが、強い逆風に立ち向かい、飛躍的な成長を遂げたことを大変嬉しく思います。2年連続で過去最高の販売台数を記録できたことは、ベントレーのブランド力と卓越したオペレーション、世界的な需要の高まり、そしてベントレーの戦略における優先事項が正しかったことを証明するものです。ベンティガ ハイブリッドの導入に対する市場のリアクションや、フライングスパー ハイブリッドを紹介した際に寄せられた市場からの大きな期待は、ラグジュアリーセクターの今後の方向性を示しており、ベントレーがその最前線に位置していることもわかりました。過去最高となった2021年の数字は、ベントレーがセールスとマーケットシェアでラグジュアリーセクターをリードしているということだけでなく、電動化の技術への投資や、世界初の電動ラグジュアリーカーメーカーになることへのコミットメントを証明するものです。



### 日本でも過去最高の596台を記録

グローバルの好調と同様に、日本市場も2021年は過去最多となる前年比30%増の596台を記録しました。モデル別の内訳は、ベンティガ シリーズが258台、コンチネンタル シリーズ（コンバーチブル含む）が178台、フライングスパー シリーズが160台でした。

### ベントレー モーターズ ジャパン代表・牛尾裕幸のコメント

2020年から続くコロナ禍の2021年でしたが、皆様方の多大なるご尽力・ご協力を得て、過去最高記録、2019年の522台を大きく上回る596台で昨年1年を終えることができました。



皆様方に厚く御礼申し上げます。

皆様方に厚く御礼申し上げます。

さて、2022年の高級車マーケットの見通しは、2021年の勢いが継続するものと予想しており、決して悲観的なものではありません。

皆様方との長きに渡る信頼関係を基にお互い協力し合っていくことにより、必ず目標は達成できると思っていますので、引き続きどうぞ宜しくお願い申し上げます。





# ハイエンドモデルも登場予定 競合ブランドのBEV事情

世界的な電動化の流れを受け、日本でも着実にBEV（100%電気自動車）のラインアップが増えてきています。

そこで今回は、競合ブランドが販売しているBEVモデルと、今後日本上陸が予想されるニューモデルについてご紹介します。

## TESLA 〈テスラモーターズ〉

- ▶ エントリーモデルのモデル3、コンパクトSUVのモデルY、SUVのモデルX、4ドアセダンのモデルSをラインアップ
- ▶ テスラ独自の急速充電器「スーパーチャージャー」は、2021年10月時点で全国37箇所に設置
- ▶ エントリーモデルとなるモデル3の価格を大幅引き下げ。454万円から買える低価格を実現

### Model S / Model S Plaid

11,990,000円/15,990,000円



- 2021年に内外装のマイナーチェンジを実施。同時に高性能モデルのPlaidを新たに設定
- モデルSはデュアルモーターで最高出力670psを發揮。0-100km/h加速3.2秒、航続距離652kmh（推定値）
- モデルS Plaidは3基のモーターで最高出力1,020psを發揮。0-100km/h加速2.1秒、航続距離637kmh（推定値）

### Model X / Model X Plaid

12,990,000円/14,990,000円



- 2021年に内外装のマイナーチェンジを実施。同時に高性能モデルのPlaidを新たに設定
- モデルXはデュアルモーターで最高出力670psを發揮。0-100km/h加速3.9秒、航続距離560kmh（推定値）
- モデルX Plaidは3基のモーターで最高出力1,020psを發揮。0-100km/h加速2.6秒、航続距離536kmh（推定値）

## BMW 〈ビーエムダブリュー〉

- ▶ BMWiのニューモデルとして、新規開発モデルのBMW iXと、BMW X3をベースにしたBMW iX3を導入
- ▶ BMW初のBEVグランクーペとなる5ドアのBMW i4/BMW i4 M50も導入予定。すでにプレオーダー受付中
- ▶ コンパクトモデルのi3、5ドアのBMW i4、SUVのBMW iXおよびBMW iX3の4車種をラインアップ

### BMW iX

10,700,000円



- BMW iX xDrive50は、最高出力523ps（385kW）、最大トルク630Nmを發揮。最大航続距離は650km
- BMW MのBEVとなるBMW iX M60は、最高出力619ps（455kW）、最大トルク1,100Nmを發揮。最大航続距離は566km

### BMW i4

価格未定



- BMW i4 eDrive40は、最高出力340ps（250kW）、最大トルク430Nmを發揮。最大航続距離は590km
- BMW i4 M50は、最高出力544ps（400kW）、最大トルク795Nmを發揮。0-100km/h加速3.9秒。最大航続距離は510km

## Mercedes-Benz 〈メルセデス・ベンツ〉

- ▶ メルセデス初のBEVであるEQCに加え、コンパクトセグメントのGLAをベースにしたBEVとなるEQAの2車種をラインアップ
- ▶ 2022年年央以降、Mercedes-EQのラグジュアリーセダンとなるEQSと、コンパクトSUVのEQBを導入予定
- ▶ 世界的な半導体供給不足の影響により、EQCの一部標準装備とパッケージオプション内の装備に変更が発生

### EQC

8,950,000円



- 前後アクスルに1つずつ搭載されたモーターにより、最高出力408ps（300kW）、最大トルク765Nmを發揮
- バッテリー容量は80kWh。50kWまでの急速充電に対応。WLTCモードで400kmの航続距離を実現
- 2021年に標準装備の一部をオプション化することで、メーカー希望小売価格を1,080万円から895万円に値下げ

### EQS

価格未定



- 2021年4月15日に本国で発表されたメルセデスEQ初のラグジュアリーEVセダン
- 欧州仕様様のEQS 450+では、最高出力333ps（245kW）を發揮。バッテリー容量は107.8kWh。最大航続距離は770km
- インストルメントパネル全面をスクリーン化したMBUXハイパースクリーンを採用

## JAGUAR 〈ジャガー〉

- ▶ 2025年から100%電気自動車のみのEVブランドとして生まれ変わるジャガー
- ▶ フラグシップモデルの次期XJにもBEVが用意される予定だったが計画が白紙撤回
- ▶ 現在のBEVラインアップは2018年に発売されたミドルサイズSUVのI-PACEのみ

### JAGUAR I-PACE

10,050,000円～12,210,000円



- 前後アクスルにモーターを搭載。最高出力400ps（250kW）。バッテリー容量は90kWh。最大航続距離はWLTCモードで438km
- 2022年モデルから新グレード「BLACK EDITION」を導入



## COMPETITOR INFORMATION

### PORSCHE 〈ポルシェ〉

- ▶ 4ドアクーペのタイカンと、クロスオーバーモデルのタイカンクロスツーリスモの2車種を販売
- ▶ 国内では最大出力となる150kWでの急速充電を可能にしたポルシェターボチャージャーを、ポルシェ正規販売店および東京、名古屋、大阪のポルシェターボチャージングステーションに設置
- ▶ ポルシェターボチャージャーでは24分で80%の充電が可能

**Taycan**  
12,030,000円～24,680,000円



- エントリーモデルのタイカンからトップエンドモデルのタイカンターボSまで5車種をラインアップ
- タイカンターボSでは0-100km/h加速2.8秒、最高速度260km/hの動力性能を発揮
- 2021年11月17日より予約受注を開始したタイカンGTSでは最大504kmの航続距離を実現

**Taycan GTS Sports Turismo**  
価格未定



**Taycan Cross Turismo**  
13,410,000円～20,560,000円



- タイカンのクロスオーバーモデルとして後席の居住性とラゲッジ容量を向上させたパッケージング
- タイカン4 クロスツーリスモ、タイカン4S クロスツーリスモ、タイカンターボ クロスツーリスモの3車種をラインアップ
- タイカンに比べて47mm高いヘッドルームと、1,200リッターを超えるラゲッジ容量を確保

- タイカンGTSと同時発表されたタイカンの第3のボディバリエーション
- パナメーラスポーツツーリスモのタイカン版といえる位置付け
- 2022年中には正式に日本仕様として導入されると見られる

### AUDI 〈アウディ〉

- ▶ e-tron/e-tron Sportback、e-tron GT quattro/RS e-tron GT、Q4 e-tron / Q4 Sportback e-tronの6車種をラインアップ
- ▶ 全国のアウディ正規販売店125店舗のうち、電気自動車販売するe-tron店ネットワークを104店舗に拡充
- ▶ e-tron店に設置する急速充電器を2024年6月までに順次150kWの高速充電器に置き換える予定

**e-tron/e-tron Sportback**  
9,350,000円～13,460,000円



- アウディ初のBEV。SUVボディスタイルのe-tronとSUVクーペスタイルのe-tron Sportbackを用意
- e-tron/e-tron Sportback 50 quattroは、システム出力230kW/540Nm、バッテリー容量は71kWh
- e-tron Sportback 55 quattroは、システム出力300kW/664Nm、バッテリー容量は95kWh

**e-tron GT quattro/RS e-tron GT**  
13,990,000円/17,990,000円



- ポルシェ タイカンとアーキテクチャーやEVコンポーネントを共用する4ドアクーペのスタイリング
- e-tron GT quattroは、システム出力350kW/630Nm、RS e-tron GTは、システム出力440kW/830Nm
- バッテリー容量は93kWh。RS e-tron GTは0-100km/h加速3.3秒の動力性能を実現

**Q4 e-tron/Q4 Sportback e-tron**  
5,990,000円～7,160,000円



- アウディ e-tronの第3弾。同社がコンパクトセグメントに初めて導入するBEV
- 125kWの急速充電（CHAdeMO規格）に対応。普通充電は最大8kWに対応
- 2022年1月17日に発表。2022年秋以降に発売予定

## AWARDS



2021年に全世界で  
ベントレーが受けた栄誉は計10個

ベントレー モーターズによると、2021年にベントレーが全世界で受けた栄誉は計10個にのぼりました。ベスト ドリーム マシン、ラグジュアリーカー オブ ザ イヤー、グレート ブリティッシュ オートモーティブ ナンバーワン エグゼクティブといった、ベントレーの商品そのものはもちろんのこと、新型コロナウイルスの感染拡大に対する危機管理チームの革新的な対応なども非常に高く評価されました。

まずは、フライングスパーがモーターウィークの「ドライバー チョイス アワード」にて「ベスト ドリーム マシン」に選出されたのを皮切りに、オートエクスプレスの「ラグジュアリー カー オブ ザ イヤー」を受賞しました。さらにロブ レポートの「ベスト オートモーティブ インテリア」賞では、フライングスパーが「ベスト オブ ザ ベスト」を受賞。同賞の審査員からは、「最高の英国のクラフトマンシップと革新的な技術を融合させたデザイン」と高く評価されました。

ベンティガも高く評価された1年になりました。「Ward ベスト10 インテリア」に選出され、「ビスポークを別のレベルに引き上げた」と称賛されました。ベンティガはまた、『4 x 4 マガジン』の「ラグジュアリー SUV オブ ザ イヤー」を受賞。同誌編集者のアラン・キッド氏は「路上での見事な軽快さを備えた素晴らしいドライビング性能

がある車ですが、シート、フェイスパネル、電子機器など、すべてが刷新されたインテリアにマッチしており、2代目ベンティガは明らかに進化しています」などと説明しています。

車両だけでなく、ベントレーのライフスタイル関連の製品として世

#### ■ 2021年の受賞一覧

	賞	主催団体
ベンティガ	ラグジュアリー SUV オブ ザ イヤー	4 x 4 マガジン
	10 ベスト インテリア	Wards オート
フライングスパー	ベスト ラグジュアリーカー	オートエクスプレス
	ベスト ドリーム マシン	モーターウィーク
	ベスト オートモーティブ インテリア	ロブ レポート
人材関連	トップ エンployヤー 2021	トップ エンployヤー インスティテュート
	シルバー認定	インベスターズ イン ピーブル
その他	イノベーション賞（危機管理チーム）	オートカー
	グレート ブリティッシュ オートモーティブ エグゼクティブ リストのナンバーワン（ホールマーク会長兼CEO）	オートエクスプレス
	ベスト イン デザイン	ロブ レポート



# マリナーが新作を発表 アウトドア仕様のベンティガ

ベントレーのビスポーク部門であるマリナーはこのほど、英国向けに11台限定で、アウトドアアクティビティをイメージした特別仕様のベンティガを発表しました。英国向けのため日本導入はありませんが、マリナーが得意とするビスポークの事例が盛り込まれた新作ということで、カスタマイズの参考事例としてご紹介いたします。

このベンティガは、釣りや乗馬、愛犬とのウォーキングという、英国で最もポピュラーな3種類のアウトドアアクティビティをモチーフにしています。そして、刺繍や手縫いのクロスステッチ、アウトドアの各テーマを描いた助手席側フェイスパネルへのクロームのオーバーレイなど、多くのビスポーク要素の組み合わせから成り立っています。

ドアとシートバックポケット、グラブハンドルの内側がウール仕上げとなっており、もともとクラスをリードする完成度を誇るインテリアに、自然な質感と素材の深みが加えられています。このサンドヘリンボンツイードは、レザーのメインカラーとセカンダリカラーとナチュラルに調和を保ちつつ、インテリアデザインを補完するために採用されま

した。フェイスとドアウェストレールのウッドパネルも、ベントレーのクラフトマンシップの真骨頂と言えるようなデザインとなっています。メインにダークフィドルバックユーカリプタスを用い、それを縁取るようにまっすぐな木目のリキッドアンバーを象眼細工のように組み合わせました。助手席側のフェイスパネルに描かれるのは、ジャンプする馬、フライフィッシングを楽しむ人、ブリティッシュ フォックスハウンドのいずれかと、「MULLINER」のロゴのみを加えた計4種類から選択できます。

この内装を活かすように、ボディカラーにはハバナ、カンブリアングリーン、マグネティックが採用されています。ホイールは22インチ10スポークアロイホイールを採用。乗車時にはLEDのベントレー ウェルカムライトやイルミネーテッド トレッドプレートに出迎えられ、ツイードの柔らかく温かみのある触感に気づくでしょう。そして特注アクセサリとして、車両を離れるときにも持参できるハンターフラスコも追加されています。このハンターフラスコのレザーは、内装に合わせたカラーで仕上げられています。





## 12カ月で233トンのCO2削減に成功 クルーの物流部門のバイオ燃料使用で



ベントレー モーターズは、本社のあるクルーの拠点に物流車両向けのバイオ燃料タンクとポンプを設置してから12カ月が経過し、この期間に物流車両からのCO2排出量を233トンも削減しました。「グリーンD+」というこのバイオ燃料(HVO)は、廃植物油を精製して作られた再生可能かつ持続可能な燃料で、ディーゼルの代替品として使用されています。

ベントレーの物流を担う車両は、2020年11月にバイオ燃料のタンクとポンプが設置されて以来、100,000リッター以上のバイオ燃料を使用してきました。これによって削減されたのと同量のCO2を削減するには、ディーゼルであれば86%も節約しなければならず、植樹するのであれば23,291本を植える必要があります。

HVOを使用する燃料スキームに加え、ベントレーで使用している250台以上のフォークリフトと工場内で使用しているけん引モーターも、グリーン電力によって動かされています。この電力の大半は、工場および本社敷地内に設置した30,000枚を超えるソーラーパネルによって発電されたもの。このソーラーパネルはカーボントラストによるカーボンニュートラル認証を受ける際に重要な役割を果たしました。

これらのプロジェクトは、Beyond 100戦略に基づいて実施されているものですが、これはあくまでも同戦略の一部に過ぎません。この戦略では、ベントレーを持続可能なラグジュアリー モビリティのグローバルリーダーにすることを目的としています。

## 新エンジニアリングテスト施設が 公式認定を受け操業開始



ベントレー モーターズはこのほど、最先端の設備を備えた新しいエンジニアリングテストセンターが英国の自動車認証機関から正式な認可を得て、操業を開始しました。住所に基づき「33ピムズレーン」と名付けられたこのテストセンターが操業を開始したことにより、グローバル基準での排出ガス、燃費、航続距離のテストを社内で行うことができるようになりました。また、現在はずべての車両を手作業で製造している製造部門で実施されている厳格なテストをさらに強化することも意味します。

33ピムズレーンは、広さ4,600㎡に建設された2階建ての施設で、773㎡のオフィススペースと1,550㎡の温度調節機能付きシャシー ダイナモ メーターが備えられています。施設内ではエンジニアたちがさまざまな勾配の坂道のシミュレーションを実施できるほか、エンジンの排気ガスやハイブリッドモデル、および将来の電気自動車の電力消費量を測定することができます。気温についても-20℃から50℃までの幅広い範囲でテストを行うことが可能です。2022年半ばまでには、世界中のあらゆる排出ガス基準の試験ができるように準備が進められています。

ベントレー モーターズのマティアス・ラーベ取締役（エンジニアリング担当）は、「これはベントレーが進めている近代化プログラムにおける重要なランドマークの一部です。この施設は、独自のエンジンをテストする独立性を持ち、業界をリードするクルー工場をさらに強化するものです」などとコメントしています。

## チェシャー地方でのチャリティーを強化 基金通じコミュニティの復興を支援



ベントレー モーターズは、昨年初めにチェシャー コミュニティ財団（CCF）と共同で立ち上げた新型コロナ基金を通じ、この基金が地域の重要なサービスを支援し、コミュニティ全体で困難に直面している人たちにとっての救いの手となっていることを確認しました。寄付金は11の団体に振り分けられ、合計5,000人以上の人々が直接的にこの基金からの支援を受けていると推計されています。

昨年初めには、7,800～25,000ポンドのそれぞれ単発の寄付金が、新型コロナウイルスの感染拡大で深刻化した食糧不足やメンタルヘルス、ウェルビーイング、債務関連の問題、財政教育などを改善するプロジェクトに活用されました。

この基金からの寄付を受けた団体の1つで、コミュニティのパントリーを含む総合的なサービスを提供するチャンス・チェンジング・ライブスは、新型コロナウイルスの感染拡大によって寄付金が減少しましたが、基金からの寄付によって支援を43%増加させることができました。また、運営の継続のみならずさまざまな在庫を確保することができました。また、チャンス・チェンジング・ライブスと協力関係にあるセントポールセンターも、この基金からの寄付を活用して、昨年のクリスマスの時期にホームレス状態の人々に200個の食料セットを届けることができました。

ベントレー モーターズのサリー・ヘプトン取締役（政府関係およびCSR担当）は、「Beyond 100戦略の一環として、ベントレーは人生のチャンスを広げることで社会に与える影響を重視しています。長期的パートナーのCCFと共に設立した基金が有意義な変化を促し、地域の重要なサービスの向上に役立っていることを嬉しく思います」などと語っています。

## ハイブリッド キャンペーンの SNS用素材が利用可能に



ベントレー モーターズは昨年12月から、ハイブリッド モデルへの関心と需要を喚起するため、リテーラーの皆様をサポートする新しいキャンペーンを行っています。そしてこのほど、SNS用の新しい素材（写真右）が利用可能となり、リテーラー マーケティング ニュースの「Downloads」からダウンロード可能となりました。新しい素材はペンティガ ハイブリッドをフィーチャーした動画と画像で、芸術写真家のManuel Bechter氏が制作したものです。いずれもInstagramとFacebookの投稿で使用できます。Bechter氏はフォロワー数200,000人超の自身のInstagramやTikTokでも、ベントレーの情報を発信します。

フライングスパー ハイブリッドとペンティガ ハイブリッドを最前面に出すこのキャンペーンは、持続可能な未来に向けて前進するベントレーの姿勢を強調するものです。ハイブリッド シリーズは、現時点での持続可能なラグジュアリーカーの最高峰として位置づけられています。高度なテクノロジーを備えつつラグジュアリーなデザインを採用し、パフォーマンスにも妥協のないハイブリッドシリーズは、サステナビリティに対するラグジュアリーカーの洗練されたアプローチを示しています。

日本でもベントレーのハイブリッド モデルを広くお客様に知っていただけるように、新たな素材を活用ください。

[📄 ハイブリッドキャンペーン素材ダウンロード](#)

# 世界のクルマの単位

世界のクルマの性能などを示す諸元を見ると、見慣れない表記があることに気づきます。  
世界の標準となるのはSI単位と呼ばれるものですが、まだまだイギリスやアメリカ、フランスなどの各国で古くから使われてきたヤード・ポンド法などが残っているのです。そこで今回は、そうした単位をまとめた換算表をご紹介します。

## SI単位とヤード・ポンド法

モノの長さや重さを示す度量衡は、その国の歴史と深く関わりあっています。日本では、寸や俵、坪などが使われてきましたが、明治以降は西洋の単位を使うようになってきました。世界に目を移すと、イギリスやアメリカではヤード・ポンド法、フランスなどの欧州大陸ではメートル法が使われていたのです。その結果、欧州とアメリカで発展した自動車には、その両方の単位が使われることになりました。しかし、それでは不便だということで、1960年の国際度量衡総会にて、SI単位が世界の統一単位として採用されたのです。それが最近使われている「m」「kg」「kW」「Nm」「cm<sup>3</sup> (cc)」などの単位となります。



### 長さ

クルマのサイズなどで、長さを示すSI単位の基本は「m」です。一方、ヤード・ポンド法では「mi (マイル)」「yd (ヤード)」「ft (フィート)」「in (インチ)」となります。「1mi (マイル)」が「1760yd (ヤード)」、「1yd (ヤード)」が「3 ft (フィート)」、「1ft (フィート)」が「12インチ」。1in (インチ) は約2.54cm (センチメートル) となります。

**1 mi (マイル) = 約1.61 km (キロメートル)**

**1 km (キロメートル) = 約0.62 mi (マイル)**

### 重さ

SI単位での重さは「kg (キログラム)」が基本で、その1000倍が「t (トン)」。一方、ヤード・ポンド法では、「oz (オンス)」「lb (ポンド)」があり、「16oz (オンス)」=「1lb (ポンド)」となります。また、ヤード・ポンド法には2つの「t (トン)」があり、「英t (トン)」=「約1016.05kg」、「米t (トン)」=「約907.19kg」となります。

**1 kg (キログラム) = 約2.21 lb (ポンド)**

**1 lb (ポンド) = 約0.45 kg (キログラム)**

### 排気量

エンジンの排気量に使われる容積のSI単位は、「cm<sup>3</sup> (立方センチメートル)」が基本。ただし「cubic centimeter (立方センチメートル)」を略して「cc (シーシー)」と使うこともあります。ヤード・ポンド法では「in<sup>3</sup>/cubic inch (立方インチ)」が使われます。

**1 cc (シーシー) = 約0.061 in<sup>3</sup>/cubic inches (立方インチ)**

**1 in<sup>3</sup>/cubic inches (立方インチ) = 約16.4 cc (シーシー)**

### 馬力

クルマのパワーを表すSI単位は「kW (キロワット)」。一方、ヤード・ポンドでは「horse power」の略で「hp」。そしてフランスなどが使っていたメートル法では、「馬の力」を意味するドイツ語から「ps」となりました。日本はフランス式の「ps」を使っています。面倒なのは英国式の「hp」とフランス式の「ps」は若干異なり、1ps=約0.986hpとなります。

**1 kW (キロワット) = 約1.36 ps (馬力)**

**1 ps (馬力) = 約0.736 kW (キロワット)**

### 燃料

燃料の量などに使われる「l (リットル)」はSI単位ではありませんが、よく使われるということで併用が許されています。一方、ヤード・ポンド法では「gal (ガロン)」が使われており、しかもイギリスとアメリカでは数値が異なります。

**1 l (リットル) = 約0.22 Impgal (英ガロン) = 約0.26 USgal (米ガロン)**

**1 USgal (米ガロン) = 約0.83 Impgal (英ガロン) = 約3.79 l (リットル)**

**1 Impgal (英ガロン) = 約1.03 USgal (米ガロン) = 約4.55 l (リットル)**

### 燃費

燃費性能を表示するときに、日本では1リットルの燃料で何km走れるかを示す「km/l」が使われています。それに対して、欧州では100kmを何リッターの燃料で走ったかという「l/100km」という単位が使われており、アメリカでは1ガロンの燃料で何マイル走れるかという「mpg」が使われています。

**1 km/l = 100l/100km = 約2.35 mpg**

**1 l/100km = 約235.2 mpg = 100 km/l**

**1 mpg = 約0.425 km/l = 約235.2 l/100km**

### トルク

エンジンのトルクを表示するときのSI単位は「Nm (ニュートン・メートル)」となります。一方、かつての日本ではメートル法の「kgf・m (キログラム・メートル)」が使われており、イギリスやアメリカでは「lb・ft (ポンド・フィート)」が使われています。

**1 Nm (ニュートン・メートル) = 約0.1 kgf・m (キログラム・メートル) = 約0.74 lb・ft (ポンド・フィート)**

**1 kgf・m (キログラム・メートル) = 約9.81 Nm (ニュートン・メートル) = 約7.23 lb・ft (ポンド・フィート)**

**1 lb・ft (ポンド・フィート) = 約1.36 Nm (ニュートン・メートル) = 約0.14 kgf・m (キログラム・メートル)**